

# 自然の継承へ意見交換 富山で森林と人シンポ



次世代への自然環境継承について意見を交わしたシンポジウム＝富山国際会議場

北日本 2011.11.24(火)

里山再生に取り組むボランティア支援組織「さんたろう倶楽部」（会長・西頭徳三富山大学長）の「第2回森林と人シンポジウム」が23日、富山市の富山国際会議場で開かれ、自然環境の継承などについて意見交換した。北日本新聞社後援。

シンポジウムは、中尾哲雄インテック会長、法貴文三井物産理事・北陸支店長、森富山市長、清水美貴富山国際大付属高校新聞部長の4人がパネリストを務め、長谷川由美同倶楽部副会長が進行役を務めた。中尾氏は次世代に環境を残す上で、子どもたちに自然と

かわりのある生き方を伝えていくことが必要だと指摘し、法氏は「一人一人が環境保護意識を持ち続けることが大切」と述べた。温室効果ガスの排出量を削減していくために、森市長は「各家庭でも、時代に合った方向へ暮らし方を変えていってほしい」と訴え、清水さんは「学校新聞で環境問題をとり上げ、森の大切さを伝えていきたい」と話した。

シンポジウムに先立ち、富山市岩瀬小学校5年生による「森についての学習」発表会と、中尾氏の基調講演が行われた。

### 森林保護テーマ シンポジウム

森林保全活動を行う市民団体「さんたろう倶楽部」（富山市）が主催する「森林と人 第2回シンポジウム」が23日、富山国際会議場（同）で開かれ、約200人が参加した。二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）削減や森林保全活動に企業や市民がどう参加すべきかについて、自

北日本 2011.11.24(火)

治体や企業の代表者らによるパネルディスカッションや講演などが行われた。ディスカッションには富山市の森雅志市長、三井物産の法貴文・北陸支店長ら行政、企業の代表3人に加え、高校生代表として清水美貴さん（富山国際大附属高3年）が参加した。

清水さんは部長を務める新聞部の活動を通じ、「ゴミの分別や暖房の設定温度を20度に抑えるなどといった目標を学校全体に呼びかけていきたい」と抱負を語った。企業代表の法支店長は、同社が約100年前から社有林を維持してきたことを紹介。「企業も森林の保護、育成を図る必要がある」と、企業の積極的な環境投資を呼びかけた。シンポジウムは自然と人のかかわりをテーマに、さんたろう倶楽部が昨年9月に初めて開催した。同倶楽部は06年に創設され、富山市内の7地域で里山保全活動を実施している。

富山県 2011.11.24(火)